沖福連職員研修を拝見して・・・

サポートセンターゆい　田崎菜美子

皆さんこんにちは。サポートセンターゆいの田崎と申します。

山里八重子さんがお亡くなりになられて 20 年が経つと聞きました。20 年前私はまだ高校生で精神障がいという言葉も聞いた事があるけどよく分からないと思うくらいでした。このお仕事をさせて頂いてまだ 5 年目でまだまだ分からない事が多く、沖福連はとても大きな所で、創設者は山里八重子さんという方と聞いたことはありましたが、どういった活動をされておられたなどは分からず、今回沖福連の職員研修の録画動画を拝見させて頂きました。

動画を拝見して、家族会を立ち上げ、当事者の方、家族の方と話をして皆で同じ悩みに共感し、向き合い、お互いに話をしてお互いに元気をもらう、そういう家族会を立ち上げてくれた山里八重子さんはとてもチャレンジ精神豊かで、熱心な方で、人を惹きつけ、行動力もすごく皆に愛されていた方なんだなと思いました。

私の身内も精神障がい者の方がいて、私はその頃まだ幼くその身内の方が亡くなって後、何年も経って実は精神障がいを患っていた、その家族、本人はとても辛い思いをたくさんしたと私が大人になって聞いた事がありました。私はその身内が大好きでよく会いたがっていましたが、あまり会うことが出来ず理由は当時知らなかったのですが、入院生活が長くて中々会えなかったのです。私の身内もその当時家族会に参加し、山里八重子さんに出会えていたら辛い思いも減り家族も仲良く暮らせていたんじゃないかと思ってしまいました。

今回山里八重子さんの事を知り、だれよりもいち早く共生社会を広めていった方だと思い、とても勉強になりました。今後、障がいがある人もない人も平等に地域で生活が送ることが出来るように、自分が出来る事を少しずつ行なっていきたいと思います。

サポートセンターゆい　伊藝直樹

今回、にぬふぁぶしの記事を書くにあたって、うるま市社協の比嘉智子様から貴重なお話をいただきました。沖福連本部の増山さんと自分自身とのつながりも、今回知る事が出来ました。私は 20 年ほど前、栃木県に研修で行きました。比嘉智子さんがすべて手配してくれていて、着いてからはある人が空港から宿舎まで、帰りも空港まで送ってくださいました。その際に「常に利用者目線だよ、目の前に困っている人がいれば力になりなさい」と言われたのが印象的です。増山さんのお母様でした。

人との繋がりを大切にしなさい、また繋がった時は力になりなさい、印象的な言葉で今の自分にとても力になっています。増山さん、お母様、ありがとうございました。